

# 写真が語る「いわき」の歴史

## 鬼ヶ城山と地域づくり

川前町上桶売の鬼ヶ城山（標高887メートル）は、矢大臣山に次ぐ市第二の高峰です。山頂にある大岩に鬼が住んでいて、村人に岩を投げつけたり悪さをしたりしていたという鬼伝説があります。

登山道は標高600メートルの麓からマツ、雑木に囲まれた稜線の約2キロメートルで、それほど難しい山登りではありません。山頂に近づくにつれて岩の数が増え、やがて花こう岩の山頂にたどり着きます。いわき市街や小名浜港が遠くに見渡せる眺望を得ることができます。麓には牧場が広がっていましたが、



「いわきの里鬼ヶ城」を眼下に鬼ヶ城山の山開き [平成9(1997)年5月 いわき市撮影]



この付近を活性化させ林業者の定住促進を図るため、国の新林業構造改善事業の一環として、昭和58（1983）年度から登山道の整備や林間広場、キャンプ場、バンガロー、山里生活体験館などの建設を進め、昭和60（1985）年7月から「いわきの里川前鬼ヶ城（現・いわきの里鬼ヶ城）」として営業を開始しました。

この間、地元民は鬼ヶ城のマスケットキャラクター「ひできくん」や鬼ヶ城太鼓などの創作、イベント開催などで地域おこしにつなげました。

毎年5月の鬼ヶ城山の山開きには、いわき絵のぼりなどに見送られ、登山客は浮き立つような心持ちで登ってきます。

※いわき市内の昔の写真をお持ちで提供いただける方は、広報広聴課（☎22-7402）へご連絡ください。

## 市長です こんにちは⑭

製造品出荷額・東北一返り咲き！～その強みと課題～

いわき市長 内田 広之



いわき市の製造品等出荷額が東北一に返り咲きました。仙台市を抜き約8,853億円。しかし、見えてきた課題もあります。

本市の強みは、化学薬品などの素材型産業と情報や輸送機器などの組立型産業がバランスよく展開されていること。コロナ禍でも素材型産業の受注は堅調です。しかし、仙台市などは、部品を集約して組み立てる産業が多く集積しています。コロナ禍の物流の滞りで部品が届かず、生産活動が停滞したようです。

その結果、本市が1位に返り咲いたのではないのでしょうか。

先日、平工業高校の生徒8人が国公立大学に合格したという報道がありました。人口減の中でも、大学の学生定員の減少幅は少なく、卒業時点で首都圏に流出する傾向が加速化されています。次世代の若者にとって魅力的な働く場を生み出して、雇用を育むことは不可欠です。

そのため、再生エネルギーや情報産業（DX）とも掛け合わせるなど、地元企業の付加価値や生産性を高めることが重要です。4月に浪江町に設置される福島国際研究教育機構との連携による研究成果の実用化も急がれます。

市役所では、事業再構築やスタートアップなど、企業のチャレンジをしっかりと応援します！そして来年度、そのための体制強化を進めます！